

みえスタディ・チェックの結果（概要） 対象は1・2年生

本年4月18日に実施した「みえスタディ・チェック」の結果を、1・2年生の国語・数学・理科の授業で、各生徒に返します。教科別の結果を示した「個人票」、問題用紙、採点した解答用紙、正答例の4種類を配ります。授業では、学年全体の結果を伝えたり、正答率の低い問題を取り上げて解き方を説明したりします。生徒の皆さんは、夏休み期間中に、家でもう一度、問題の解き直しをしましょう。

「みえスタディ・チェック」は、児童生徒に確かな学力を育むため、三重県教育委員会が実施している学力テストで、県内の小学校4・5年生と中学校1・2年生が対象となっています。

学校では、三重県教育委員会による県全体の分析結果を踏まえ、本校と県全体の問題別の平均正答率や無解答の状況を比較するなどして、これまでの学習活動の成果や課題の分析を行いました。今後、この分析結果を踏まえ、各学年、各教科の指導の充実に努めます。

以下に、学年別の結果の概要を掲載しましたので、各ご家庭では、生徒に返す「個人票」と合わせてご覧いただき、生徒たちの頑張りを認め、課題を克服できるように励まし、家庭での学習習慣や生活習慣の見直しにつなげていただきますようお願いいたします。

みえスタディ・チェックについて

- ◆目的：児童生徒が自らの学習内容の定着状況を確認し、目標を持って主体的に学習に取り組む意欲を育む。
- ◆実施日：平成31年4月18日（木）
- ◆対象：三重県の小学校4・5年生、中学校1・2年生
※同日、全国学力・学習状況調査が、全国の小6、中3を対象に実施されました。
- ◆教科：国語、算数・数学、理科
- ◆内容：前年度までの学習で身に付けた知識・技能を活用する力を問う問題
- ◆その他：令和2年1月22日（水）に、小5、中2を対象として第2回目が実施されます。
教科は、国語、算数・数学です。

1年生の結果（概要）

1年生全体の結果は、表1-1のとおりです。また、各教科の問題別の平均正答率について、本校と三重県とを比較すると、表1-2のとおりとなります。

（表1-1）平均正答率の比較 [1年生]

教科（問題数）	五十鈴中	三重県	差
国語（14問）	71.6%	66.6%	+5.0
数学（17問）	61.2%	57.7%	+3.5
理科（20問）	59.1%	53.4%	+5.7

- ※ 各教科の問題数は、国語が14問、数学が17問、理科が20問であり、平均正答率は、平均正答数（生徒が正解した問題数の平均）を問題数で割った値をパーセンテージで表しています。
- ※ 「差」の欄の数値は、五十鈴中の平均正答率から三重県全体の平均正答率を引いた値です。

（表1-2）問題別の平均正答率に関する本校と三重県との比較の状況 [1年生]

教科（問題数）	三重県の平均正答率との比較	問題数	差が5ポイント以上10ポイント未満の問題数	差が10ポイント以上の問題数
国語（14問）	三重県を上回る	8問	3問	3問
	三重県を下回る	6問	1問	0問
数学（17問）	三重県を上回る	14問	7問	1問
	三重県を下回る	3問	1問	0問
理科（20問）	三重県を上回る	16問	5問	5問
	三重県を下回る	4問	0問	0問

- ※ 上の表は、問題別の平均正答率について、五十鈴中と三重県全体とを比較した結果を示しています。
- ※ 問題別の平均正答率は、正答の生徒数を全生徒数で割った値をパーセンテージで表したものです。
- ※ 各欄の数値は問題数を表しています。

◆ 国語、数学、理科の各教科で、学年の平均正答率が三重県の平均正答率を上回っており、学年全体として、小学校での学習内容の定着状況は県平均以上と見られます。特に、国語と理科ではそれぞれ5ポイント以上県平均を上回っており、学習内容の定着状況が良好であると見られます。

○ **国語**の問題数は14問です。平均正答率が三重県平均を上回っている問題は14問中8問、下回っている問題は6問です。県平均を下回る6問の内、5ポイント以上10ポイント未満の差がある問題は1問(122)で、10ポイント以上下回っている問題はありません。また、「13ア」の問題は、平均正答率が30%未満となっています。(本校：26.5%、県全体：28.6%)

特に、これらの問題については、再度、解き直して理解と定着を図り、「文章を読み取る力」、「条件に従って文章の内容を要約したり、自分の意見を書いたりする力」をさらに身に付けることが大切です。

※122：文脈に即して漢字を正しく書く問題 [おぎな(う)→補(う)] (短答式)

※13ア：語句の意味を理解し、文脈の中で適切なものを選ぶ問題 [(…高を) くくって (いた)] (選択式)

○ **数学**の問題数は17問です。平均正答率が三重県平均を上回っている問題は17問中14問、下回っている問題は3問です。県平均を下回る3問の内、5ポイント以上10ポイント未満の差がある問題は1問(1(2))で、10ポイント以上下回っている問題はありません。また、「5(2)」の問題は、平均正答率が30%未満となっています。(本校：17.3%、県全体：18.7%)

特に、これらの問題については、再度、解き直しを行い、「四則計算の基礎的・基本的な技能」とともに、「基準量・比較量・割合の関係を理解し、筋道を立てて説明する力」を身に付ける必要があります。

※1(2)：加法と乗法の混合した整数と小数の計算をして答えを求める問題 (短答式)

※5(2)：示された考え方が正しいかどうかを割合の考え方をを用いて判断し、その理由を記述する問題 (記述式)

○ **理科**の問題数は20問です。平均正答率が三重県平均を上回っている問題は20問中16問で、この内、県平均を5ポイント以上10ポイント未満で上回る問題は5問、10ポイント以上上回る問題も5問となっています。県平均を下回っている4問については、いずれも差が5ポイント未満です。また、平均正答率が30%未満の問題はなく、学年全体として学習内容の定着状況が良好であると見られます。

2年生の結果 (概要)

2年生全体の結果は、表2-1のとおりです。また、各教科の問題別の平均正答率について、本校と三重県とを比較すると、表2-2のとおりとなります。

(表2-1) 平均正答率の比較 [2年生]

教科 (問題数)	五十鈴中	三重県	差
国語 (17問)	63.3%	60.5%	+2.8
数学 (19問)	48.7%	44.0%	+4.7
理科 (20問)	39.9%	35.6%	+4.3

※ 各教科の問題数は、国語が17問、数学が19問、理科が20問であり、平均正答率は、平均正答数(生徒が正解した問題数の平均)を問題数で割った値をパーセンテージで表しています。

※ 「差」の欄の数値は、五十鈴中の平均正答率から三重県全体の平均正答率を引いた値です。

(表2-2) 問題別の平均正答率に関する本校と三重県との比較の状況 [2年生]

教科 (問題数)	三重県の平均正答率との比較	問題数	差が5ポイント以上10ポイント未満の問題数	差が10ポイント以上の問題数
国語 (17問)	三重県を上回る	12問	1問	4問
	三重県を下回る	5問	2問	0問
数学 (19問)	三重県を上回る	15問	7問	5問
	三重県を下回る	4問	0問	1問
理科 (20問)	三重県を上回る	15問	6問	6問
	三重県を下回る	5問	2問	3問

※ 上の表は、問題別の平均正答率について、五十鈴中と三重県全体とを比較した結果を示しています。

※ 問題別の平均正答率は、正答の生徒数を全生徒数で割った値をパーセンテージで表したものです。

※ 各欄の数値は問題数を表しています。

◆ 国語、数学、理科の各教科で、学年の平均正答率が三重県の平均正答率を上回っており、学年全体として、前年度までの学習内容の定着状況は県平均以上と見られます。国語では2.8ポイント、数学では4.7ポイント、理科では4.3ポイント上回っており、学習内容の定着状況が良好であると見られます。
なお、理科については、平均正答率が県平均を上回ってはいるものの、県全体と同様に低く、30%台に留まっています。今後、正答率の低い問題を解き直し、学習内容の理解と定着を図ることが必要です。

○ **国語**の問題数は17問です。平均正答率が三重県平均を上回っている問題は17問中12問、下回っている問題は5問です。県平均を下回る5問の内、県平均と5ポイント以上10ポイント未満の差がある問題は2問(3一、3三)であり、10ポイント以上下回っている問題はありません。また、平均正答率が30%未満の問題は1問(1二1)です。

今後、「目的に応じて複数の文章から必要な情報を読み取り、考えをまとめる力」、「条件に従って文章の内容を要約したり、自分の意見を書いたりする力」、「根拠を明らかにして筋道を立てて説明したり書いたりする力」などを、さらに身に付けることが大切です。

※1二1：文脈に即して漢字を正しく書く問題[こうせき→功績] (短答式)

※3一：小説『風を運ぶ人』の一部を読み、文脈における表現の意味を理解し、適切なものを選ぶ問題 (選択式)

※3三：キャプテンを引き受けるかどうかに関する自分の意見を、文章中の叙述を取り上げて書く問題 (記述式)

○ **数学**の問題数は19問です。平均正答率が三重県平均を上回っている問題は19問中15問で、この内、県平均を5ポイント以上10ポイント未満で上回る問題は7問、10ポイント以上上回る問題は5問となっています。県平均を下回っている問題は4問で、この内、1問(5(1))は県平均を10.6ポイント下回っており、他の3問は5ポイント未満の下回りです。また、平均正答率が30%未満の問題は5問(1(3)、2(2)、3(2)・(3)、4(2))です。これらの問題については、再度、問題の解き直しを行い、学習内容の理解と定着を図る必要があります。

※1(3)：牛乳を普通の値段の90%のa円で売っている時、普通の値段をaを用いた式で表す問題 (短答式)

※2(2)：与えられた比例のグラフから、xの変域に対応するyの変域を求める問題 (短答式)

※3(2)：同じ高さに紙をn枚はるのに必要な横の長さが、与えられた式になる理由を説明する問題 (記述式)

※3(3)：紙をn枚はるのに必要な横の長さを表す式と実際の横の長さから、nの値を求める問題 (短答式)

※4(2)：2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明する問題 (記述式)

※5(1)：通学距離に関する調査結果について考察し、ある生徒の通学距離よりも長い人が多いか、短い人が多いかを知るために、その通学距離と比較する値を選択する問題 (選択式)

○ **理科**の問題数は20問です。平均正答率が三重県平均を上回っている問題は20問中15問、下回っている問題は5問です。県平均を下回る5問の内、5ポイント以上10ポイント未満の差がある問題は2問(5(1)・(2))で、10ポイント以上下回る問題は3問(6(3)・(4)・(5))です。

また、「力の大きさとばねの伸びの関係」に関する問題の「2(2)」、「ものの浮き沈みと密度の関係」に関する問題の「3(4)」、「鉢植えによる空気中の水蒸気量の増加」に関する問題の「4(2)」、「植物の光合成と二酸化炭素濃度」に関する問題の「5(2)・(3)」、「緊急地震速報」に関する問題の「6(3)・(4)・(5)」の8問については、平均正答率が30%未満であり、課題が見られます。

これらの問題については、授業や家庭学習で問題の解き直しを行うことが必要です。振り返りの学習を通して、科学的な知識・技能の一層の習得を図るとともに、「文章を読んで意味を理解する力」、「自然事象の解決に知識・技能を活用して考える力」、「文章と図やグラフなどとの関係付けて自分の考えをまとめる力」、「根拠を明らかにして筋道を立てて説明したり書いたりする力」などを身に付けることが大切です。

※5(1)：植物の光合成の実験で、調べたい条件以外の条件をそろえて行う実験の名称を答える問題 (短答式)

※5(2)：示された実験結果の考察の内容を検討して改善し、課題に対応した考察を文章で書く問題 (記述式)

※6(3)：地震のデータから作成されたグラフを見て、緊急地震速報の発表と同時にS波が到達する地点の震源からの距離を求め、適切なものを1つ選ぶ問題 (選択式)

※6(4)：グラフを見て、震源からの距離が80kmの地点での、緊急地震速報の発表からS波が到達するまでにかかる時間を推定し、適切なものを選ぶ問題 (選択式)

※6(5)：緊急地震速報のしくみについて調べた内容を検討し、より早く緊急地震速報を発表するための方法について、条件に従って文章で書く問題 (記述式)